

政策体系	基本目標名	1	地域の特色を活かした快適なまちづくり	施策主管課長	環境政策課長
	政策名	3	環境にやさしいまちづくり		
	施策名	2	良好な生活環境と豊かな自然環境の保全		
施策関係課	市民活動促進課、クリーン推進課、健康増進課、農山村振興課、都市整備課、道路河川課、学校教育課、生涯学習課				川俣 浩

1. 施策の目的と成果把握

施策の目的「対象」	この施策は、誰、何を対象としているか	対象指標				単位	H26	H27	H28	成果指標設定の考え方
	①生活環境(水、大気、土壌、騒音、振動、悪臭) ②自然環境(森林、緑地、河川、水辺、動植物の生態系) ③市民	①市域面積 ②森林面積 ③市人口 ④事業所数(経済センサス調査数)	km ha 人 社	356.04 21,825 122,582 6,772	356.04 21,825 121,522 6,772	356.04 21,825 120,683 6,772	①河川、地下水は環境基準の達成状況が確認できるため、指標とした。 ②自然保護活動は自然環境を次世代に引き継ごうとする活動であるので、指標とした。 ③環境に配慮した生活をしている市民の割合は、市民の自然環境を大切にしている意識の状況を表すため、指標とした。 ④事業活動は生活環境に大きな影響を与える可能性が大きいので、アンケートにより生活環境について評価を行い、指標とした。			
施策の目的「意図」	この施策によって、「対象」をどういう状態にするのか	成果指標(意図の達成度を表す指標)	区分	単位	H26	H27	H28	H29	成果指標の取得方法	
	①環境汚染を未然に防止し、良好な生活環境を維持する。 ②自然環境を保全し、次世代に引き継ぐ。 ③市民の自然環境を大切にすることを育てる。 ④環境に配慮した事業活動を行う。	① 河川、地下水の環境基準達成率 ② 自然保護活動に参加した人の割合 ③ 環境に配慮した生活をしている市民の割合 ④ 生活環境(河川、側溝、空気、騒音、振動、悪臭)が良いと感じている市民の割合	目標 実績 目標 実績 目標 実績 目標 実績	% % % %	%	100 99.4 100 210 246 0 1 100 6,719 135 159 79.0 64.7	100 99.0 100 200 271 0 0 100 6,819 140 169 81.0 65.2	100 99.0 100 190 232 0 0 110 6,869 145 173 84.0 66.7		100 99.0 100 180 232 0 0 110 6,919 150 173 87.0 66.7

2. 基本事業の目的と成果把握

基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	H26	H27	H28	H29	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	単位	H26	H27	H28	H29		
良好な生活環境の保全	①生活環境	①良好な生活環境が維持されている。	① 河川・地下水の環境基準達成率	目標	%	100	100	100	100	自然保護活動の充実と環境学習の推進	①市民	①自然環境を大切にしている心が育成されている。	① 自然観察会参加者数	目標	人	200	230	240	250		
			② 騒音に係る環境基準達成率	実績	%	99.4	99.0	99.0	99.0				② 環境学習メニュー数	目標	講座	17	17	20	20		
			③ 近隣公害苦情件数	目標	件	210	200	190	180				③ 自然保護活動ボランティア数	目標	人	2,650	2,680	2,690	2,700		
			④ 放射能測定で基準値を超えた件数	実績	件	246	271	232	232				④ 市民環境リポーター数	目標	人	2,440	2,502	2,521	2,700		
自然環境の保全と再生	①自然環境	①豊かな自然環境が保全、再生されている。	① 間伐の実施面積	目標	ha	100	100	110	110				①	目標							
			② 保安林指定面積	実績	ha	45	43	29	29				②	目標							
			③ 里山林整備面積	目標	ha	6,700	6,732	6,777	6,777				③	目標							
			④ 市内の自然環境が良好に保たれているとされている市民の割合	実績	%	135	140	145	150				④	目標							

3. 施策及び基本事業の目標達成度評価

施策	平成28年度施策の取組方針				施策の取組方針・成果指標達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 定期的な観測・調査により、環境汚染の未然防止に努める。 里山林の整備を継続して行うとともに、これまで整備した箇所の管理を含め、地域ぐるみの活動を支援する。 環境問題の先駆者としての田中正造の偉業を顕彰するため、田中正造記念日を制定し環境イベントを実施するとともに、環境対策や自然環境保護活動に取り組む団体を田中正造記念賞として表彰する。 永年、地域で環境美化に取り組んできた団体等を表彰する制度を設け、地域の環境美化活動を推進する。 				<ul style="list-style-type: none"> 水、大気、騒音等の生活環境について定期的に測定するとともに、事業所への立入調査や公害パトロールによる監視・指導を行い、環境汚染の未然防止に努めた。 里山林整備の新規箇所は、1か所での実施にとどまった。また、これまでに整備した箇所の管理は、継続して地域ぐるみで活動が実施され、これに対する支援を行った。 10月12日を田中正造の日とし、田中正造の日環境フェスタを実施した。また、環境フェスタにおいて、田中正造記念賞表彰を実施し、市民等に自然環境の大切さを実感してもらうことができた。 地域の環境美化活動に取り組む団体の表彰を環境フェスタにおいて実施し、地域の環境美化活動を推進するための啓発ができた。 			
基本事業	基本事業の取組方針・成果指標達成状況				基本事業の取組方針・成果指標達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 「きれいなまちづくり推進条例」に基づき、良好な生活環境の保全を図る。 河川、地下水、道路騒音等の定期的な観測・調査や公害パトロールにより、環境汚染の未然防止、良好な生活環境の維持に努める。 地域で環境美化に取り組んできた団体を表彰することにより、地域の環境美化活動を推進する。 				<ul style="list-style-type: none"> 水、大気、騒音等の生活環境について定期的に測定するとともに、事業所への立入調査や公害パトロールによる監視・指導を行い、良好な生活環境の維持に努めた。 環境フェスタにおいて地域の環境美化活動に取り組む団体を10団体表彰し、地域の環境美化活動を推進し 			

基本事業	基本事業の取組方針・成果指標達成状況				基本事業の取組方針・成果指標達成状況			
	<ul style="list-style-type: none"> 「きれいなまちづくり推進条例」に基づき、良好な生活環境の保全を図る。 河川、地下水、道路騒音等の定期的な観測・調査や公害パトロールにより、環境汚染の未然防止、良好な生活環境の維持に努める。 地域で環境美化に取り組んできた団体を表彰することにより、地域の環境美化活動を推進する。 				<ul style="list-style-type: none"> 水、大気、騒音等の生活環境について定期的に測定するとともに、事業所への立入調査や公害パトロールによる監視・指導を行い、良好な生活環境の維持に努めた。 環境フェスタにおいて地域の環境美化活動に取り組む団体を10団体表彰し、地域の環境美化活動を推進し 			

4. 施策の基本情報

施策の基本情報	社会情勢変化、国・県の動向、市民・議会意見等		施策の成果向上に向けての役割分担	
	<ul style="list-style-type: none"> 平成28年5月に、国において「地球温暖化対策計画」が策定され、2030年度に2013年度比▲26%の温室効果ガスを削減するとの目標が掲げられた。 国では、上記の目標を達成するため「COOL CHOICE(賢い選択)」を旗印に、地球温暖化防止のための国民運動が展開されている。 森林の管理の低下により、地球温暖化防止機能、水源かん養機能、生物多様性保全機能等が低下している。 県は、「とちぎの元気な森づくり県民税事業」により森林の公益的機能の持続的な発揮ができるよう取り組んでいる。 福島第一原子力発電所の事故による放射性物質の国による「汚染状況重点調査地域」指定が、平成28年3月31日で解除された。 		<ul style="list-style-type: none"> 【市民】 <ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化防止に向け、環境に配慮した生活をする。 環境美化活動や環境保全活動を行う。 身近な自然の保護活動、ふれあい活動、環境学習に参加する。 【地域・事業所】 <ul style="list-style-type: none"> 公害関係法令を遵守し、環境に負荷を与えないように事業活動を行う。 地球温暖化防止に向け、環境に配慮した事業活動や製品の開発に取り組む。 森林を適正に管理する。 間伐材等を活用した商品の開発と普及に努める。 	

5. 施策全体の総括・今後の課題・今後の方向性

施策の成果実績と施策の基本情報及び施策コストに関する全体総括		今後の課題	今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> 良好な生活環境の保全のため、犬猫の飼育方を啓発するとともに、ふん害に対する指導を徹底して行った。また、近隣公害の状況を定期測定し、苦情については指導を徹底した。さらに、環境フェスタにおいて環境美化功労団体を表彰することにより、生活環境の保全について啓発をした。このような活動を行ったが、近隣公害の苦情件数は目標を達成することができなかったが、昨年度より減少した。 自然環境の保全と再生では、里山林整備の新規箇所は1か所にとどまったものの、継続して地域ぐるみでの整備箇所の管理が実施された。また、その中において、自然観察会なども開催され、自然に触れ合う機会も創出された。さらに、パリ協定を踏まえた「COOL CHOICE」の推進を図るため、推進宣言を行うとともに、補助金を活用し各種セミナー、ポスターデザインコンテストの実施などを行った。 自然保護活動の充実と環境学習の推進では、大学、森林組合、市民団体等と連携して保護活動と学習活動を実施した。このようなことから、自然保護活動に参加した人の割合、環境に配慮した生活をしている市民の割合は昨年度より増加した。 コスト面においては、平成28年度当初予算298,392千円に対し297,542千円となり、ほぼ予定どおりの事業を執行することができた。 		<ul style="list-style-type: none"> 〈平成29年度で解決する課題〉 <ul style="list-style-type: none"> 環境基本計画の策定 〈平成30年度以降も引き継がれる課題〉 <ul style="list-style-type: none"> 空き地の適正管理推進と飼育犬等のふん害防止 環境学習の推進と市民環境リポーター制度の改善 田中正造の日環境フェスタの実施と田中正造記念賞、環境美化功労団体等の表彰 里山林整備の補助金終了後における継続的な管理の推進 〈平成30年度重点課題〉 <ul style="list-style-type: none"> 「COOL CHOICE」推進による地球温暖化防止の取組強化 	<ul style="list-style-type: none"> 空き地の適正管理、飼育犬等のふん害防止等生活環境の保全について啓発を図るとともに、原因者への指導の徹底を図る。 環境団体等と連携しての環境学習等の充実と市民環境リポーター制度の改善、再構築を図る。 田中正造の日環境フェスタ、田中正造記念賞、環境美化功労団体等表彰を継続して行い、自主的な環境保護活動の活発化を図る。 町会等の団体に対し、補助金終了後も継続して適正な管理を実施してもらえるよう働きかける。 市民の地球温暖化問題に対する意識を「COOL CHOICE」を推進することにより向上させる。